

平成25年度「確かな学力の伸長を図る調査」の 分析に基づく授業改善推進プラン

東久留米市立 南 中学校

(1) 学年 (数 学) 科

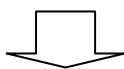
1 「確かな学力の伸長を図る調査」の分析結果

これまでの指導の成果

- ・授業中に教科書と同様の副教材やワークシートを使用し、演習問題を解かせることで、授業内容の理解と定着を図った。
- ・教科書の問題を黒板等で自ら解かせ、解き方を生徒自身に発表させることで、自信を付けさせた。
- ・プリントや補充問題を多様に用意して、生徒一人一人の力にあわせた演習問題を解かせるなど、個に応じた指導を行ってきた。
- ・基礎基本の定着とともに、放課後や長期休業中に補習補講、再テストを実施し、補充・発展両面からの指導を行ってきた。

課題

- ・図形の名称や計量に対する知識が乏しいものが一定数いる。
- ・問いの文章を読み解き、理解する力が弱い傾向がある。
- ・知識の定着に一定の勉強量と時間経過が必要な傾向がある。
- ・公式や授業での理解度はあるものの、応用や発展的な問題には苦手意識をもつ傾向がある。



2 課題解決に向けた具対策について

個に応じた指導について(補充的な学習及び発展的な学習の推進に向けて)	
補充的な学習	発展的な学習
<ul style="list-style-type: none">・朝の10分間学習による復習・年間計画で、既修単元の復習の時間を設定して、定着を図る。	<ul style="list-style-type: none">・家庭学習の定着のために、定期テストごとにワーク、テストのやり直しを提出させる。・副教材を見直し、生徒一人一人の定着にあった問題に取り組みせ、発展的学習と個に応じた指導を行っている。
その他	
<ul style="list-style-type: none">・話し合い活動を取り入れた授業を行い、学習が遅れがちな生徒への支援としている。・解答の書式を統一し、生徒間の答合わせや教えあいの場面に役立てている。・図形の対称性など、既習内容に即した練習問題を設定し、練習と復習を兼ねて学習させる。	

※ 各校授業改善推進プランを作成に当たって、国語と算数・数学は、このプロットを付け足してください。

※ 今までの各校独自のプロットは、このあとに付けるようお願いいたします。